

令和 6 年 7 月 24 日
京都市交響楽団

常任指揮者(沖澤のどか)の契約期間延長について

京都市交響楽団では、第 14 代常任指揮者沖澤のどかとの契約を 3 年間延長することといたしましたので発表いたします。

契約期間は現在の契約期間である「2023 年(令和 5 年)4 月 1 日から 2026 年(令和 8 年)3 月 31 日まで」に引き続く、「2026 年(令和 8 年)4 月 1 日から 2029 年(令和 11 年)3 月 31 日まで」となります。

プロフィール

沖澤 のどか (京都市交響楽団 第 14 代常任指揮者)

Nodoka Okisawa (14th Chief Conductor of the City of Kyoto Symphony Orchestra)



2019 年、名高いブザンソン国際指揮者コンクールで優勝、併せてオーケストラ賞及び聴衆賞を受賞。2018 年には、最も権威ある国際的な指揮コンクールの一つである東京国際音楽コンクール〈指揮〉でも優勝(及び特別賞、齋藤秀雄賞を受賞)している。第 28 回(2020 年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞、公益財団法人ソニー音楽財団 第 21 回(2022 年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門、第 1 回(2023 年度)毎日芸術賞ユニクロ賞受賞。セイジ・オザワ松本フェスティバル首席客演指揮者。

2020 年から 2022 年までベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー奨学生、及びキリル・ペトレン

コ氏のアシスタントを務めた。その間、ベルリン・フィル・アカデミー団員との沖澤自身のコンサート・プロジェクトに加え、2022 年 3 月にはドイツ連邦共和国大統領フランク＝ヴァルター・シュタインマイヤー氏主催によるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーとのウクライナのための連帯コンサートを指揮。さらに 2022 年 5 月には、カラヤン・アカデミー 50 周年を祝うキリル・ペトレンコ氏との記念コンサートにも出演した。

2023/24 シーズンは、バーゼル室内管弦楽団、ウィニペグ交響楽団、ケベック交響楽団、BBC ウェールズ・ナショナル管弦楽団等にデビューする。また、NHK 交響楽団の定期公演へのデビューのほか、東京交響楽団及び 2022/23 シーズンにアーティスト・イン・レジデンスを務めたミュンヘン交響楽団へ再登場。

日本では、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢を含む主要オーケストラへ定期的に客演。30 周年記念となったセイジ・オザワ松本フェスティバル 2022 では、ロラン・ペリー氏演出のモーツァルトの歌劇『フィガロの結婚』を指揮してサイトウ・キネン・オーケストラにデビューした。

ネーメ・ヤルヴィ、パーヴォ・ヤルヴィ、クルト・マズア各氏をはじめとする数多くのマスタークラスを受講。2019 年にはリッカルド・ムーティ「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」で指揮受講生に選出されたほか、それ以前にもオーケストラ・アンサンブル金沢の指揮研究員として、また、日本とヨーロッパにおけるオペラ・プロダクションでもさらなる経験を積んだ。2020 年 11 月には、東京二期会オペラ劇場公演 レハール作曲『メリー・ウイドー』で指揮を務めた。

青森県生まれ。幼少期からピアノ、チェロ、オーボエを学ぶ。東京藝術大学で指揮を高関健、尾高忠明両氏に師事して修士号を取得。2019 年には、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンでクリスティアン・エーヴァルトとハンス・ディーター・バウム両氏のもと第二の修士号を取得した。ベルリン在住。

2023 年 4 月から京都市交響楽団第 14 代常任指揮者に就任。